

2025 年度 (対象年度 2022~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 現代教育学部

基準 2 内部質保証

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 2022 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0203	外部評価に関連した予算措置
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度課題事項は「外部評価費用の継続申請」であったが、大きな進捗は見られない。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0201	内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。	自己評価	B
評価の視点	(3) 大学全体規模や学部、研究科その他の組織（教職課程を実施する全学組織を含む）における自己点検・評価をそれぞれ定期的実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。 (4) 学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。 (5) 行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。			
現状説明				
本学部には、点検・評価に関連する以下のような特徴がある。 他学部と異なり、定期的に外部（厚生労働省や文部科学省）の調査が入るため、これを意識して日常的に全体にわたる点検、見直しを行っている（教育課程、施設設備、教員の専門性、受講者数管理など）[2-1]。 厚生労働省に、毎年、業務報告書を提出している（授業時間数、実習実施状況、職員内訳（専任、非常勤）、資格取得状況、就職状況、定員、入学者数、編入学者数など）[2-2]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0201	指定保育士養成施設指導調査、教職課程認定

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0201	外部評価に関連した予算措置
今後の改善・向上方策	
外部評価導入を目的とした予算請求を継続して行い、外部評価の実現に努める。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するか評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 現代教育学部

基準 4 教育・学習 (4a)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 2022 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0403	高大連携
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>中部大学併設校とは高大連携プログラムの実施や学部・学科紹介授業及び模擬授業 [4a-1] を、また、推薦入学者には入学前教育 [4a-2] を実施し、学部の教育内容や入学前に取り組んでおくべき学習を高校生に分かりやすく示している。2024 年度には各高校に学部の教育内容、大学生活についての理解を促すため、学科ごとのパンフレット [4a-3] を作成し、今後は高校訪問を実施し、さらに中部大学の教育に対する理解を啓発したり、魅力を発信したりしていく計画である。</p>	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0401	達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1) 学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程および教育・学習の方法を明確にしているか。</p> <p>(2) 上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。</p>			
現状説明	<p>学位授与方針については学部及び各学科・専攻の DP・CP [4a-4] に明示し、学生が習得すべき知識、技能、態度等の学修成果を明らかにしている。学部・学科の教育課程の特徴及び学習の方法をスタートアップセミナーの授業 [4a-5] の中で、学生に活動を通して明確に伝えている。保育士資格、幼稚園・小学校・中学校（理科、国語、数学）及び特別支援学校教諭免許状を授与する課程を有することから、厚生労働省及び文部科学省から厳格に教育課程を管理することを求められており、実施視察や外部評価に対応できるように教育課程の自己点検・評価を継続的に実施している [2-1、2-2、4a-6]。また、毎年「東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会」に参加し、東海・北陸地区の各教育委員会の情報を得て教職に係る教育課程の研究をしている [4a-7]。</p>			

評価項目	0402	学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	自己評価	B
評価の視点	<p>学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p>※ 具体的な例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。 ・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。 ・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。 ・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。 			
現状説明				
<p>学科・専攻ごとに入学から卒業までの授業科目を体系的に編成し、年次・学期配当を明確にし、授業科目の位置づけを学生便覧に示している [4a-8]。また、学科ごとに教育課程系統図 [4a-9] を作成し、学生便覧に掲載している。現代教育学科では、学生の到達目標である進路ごとに学習の順次性や授業期間を分かりやすくまとめたキャリア形成マップを作成し、掲示している [4a-10]。各種実習やインターンシップの時期、就職試験や教員採用試験等の時期など教育課程外のものを含めた4年間の学びの体系を可視化できるようにしている。</p>				

評価項目	0403	課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	自己評価	B
評価の視点	<p>(1) 授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果および教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。</p> <p>(2) ICT を利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。</p> <p>(3) 授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。</p> <p>※ 具体的な例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応。 ・単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置。 ・シラバスの作成と活用（学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容であるか。）。 ・授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置。 			
現状説明				
<p>幼稚園・小学校・中学校教諭を目指す学生が多いことから、教養科目では学科ごとの指定クラスを設定し、それぞれの免許取得に係る専攻専門科目では実践的な学習活動（模擬授業等）ができるよう少人数制の複数クラス編成を行っている。また、学修成果達成のための授業形態や授業方法の適切化を図るため、毎年、全教員で第三者シラバス点検を実施している [4a-11]。履修に関しては、学生の進路に添って必要な科目履修ができるよう、学年ごとに履修オリエンテーションを実施し、授業の内容や目的を理解して科目履修ができるようにしている [4a-12]。入学時にプレイメントテストを実施し、学生の学力の把握をし、また、毎年度の履修成績状況をもとに、指導教授が個々の学生と学修や進路について面談を行い、多様な学生への対応をしている。さらに近年は、就職活動や教員等採用試験の早期化に伴い、教育実習時期も早まっていることから、効果的な学修のための授業科目の内容や実施時期、科目の精選については継続的な見直しが必要になっている。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0401	厚生労働省・文部科学省の審査基準に適合した教育課程管理。私立大学教職課程研究連絡懇談会への出席等、継続的な教育課程の研究。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	授業科目の内容及び実施時期の見直し
今後の改善・向上方策	
教員等採用試験や就職活動の早期化、それに伴う実習時期の早期化に伴い、文部科学省・厚生労働省の基準や指針に基づき、より効果的な授業実施時期の継続的な検討が必要である。また、今後の中部大学教学改革に向けた方針に従いつつ、学部・学科の特色を維持しつつ、必要な授業科目の精選を検討する必要がある。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
<p>[0401] 厚生労働省や文部科学省からの第三者評価の受審の実施[2-1][2-2]や私立大学教職課程懇談会の情報を得て教育課程の研究をされており[4a-7]、改善向上への努力がうかがえる。学習成果の明確化についても、学部および各学科・専攻のDP/CPをwebで明示するのみならず、入学時の学科オリエンテーションで学科主任によって説明が行われている[4a-4][4a-5]。また、現場のニーズに応じた教育改善が行われており[4a-7]、加えて独自の取り組みによる教育改善も進められており[4a-3][4a-10] 達成すべき学習成果、教育課程の特徴、学習方法を明確にするとともに、教育・学習の基本的な在り方を示していると判断される。</p> <p>[0402] 進路ごとのキャリア形成マップを作成し、4年間の学びの体系が分かりやすく学生に提示され[4a-10]、教育課程も体系的に編成されており、特に学生や外部からもわかるよう工夫されている。</p> <p>[0403] 学生の進路に沿って必要な科目履修ができるように学年ごとの履修オリエンテーション[4a-12]の実施、履修成績状況をもとに指導教授による面談を実施して支援を十分行っている。一方で、就職活動、教員採用試験の早期化(3年生)により、効果的な授業科目の内容及実施時期等についての見直しが求められる。前回までの高大連携の課題の対応として、模擬授業や学科ごとのパンフレット作製[4a-3]など、取り組み改善が進んでいると判断される。</p>	
長所・特色	
<p>[0401] 毎年「東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会」に参加することで、東海・北陸地区の各教育委員会といった現場からの情報やニーズを敏感に把握できており、教職に関する教育課程の研究と改善が期待できる[4a-6][4a-7]。</p> <p>[0402] 学生の進路ごとに設定された到達目標に基づき、学習の順序性や授業期間を分かりやすく整理した「キャリア形成マップ」を作成・掲示することで、学生が自身の目標に向けてスムーズに学習を進めるための有効なスケジュールとなっている[4a-10]。</p>	
留意点 *各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	
[403] 教員等採用試験や就職活動の早期化による科目の内容及実施時期等についての見直しだが、中部大学教学改革(2025年度)の中で進められることを期待する【B】。	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 現代教育学部

基準 4 教育・学習 (4b)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	学部、学科の特色を鮮明にするための科目精選
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
厚生労働省及び文部科学省の通知に従い、学部教務委員会を中心に教育課程の点検・検討を行い [4b-1]、学部・学科の活性化に繋がるように科目精選を進めている。特に、現代教育学部では、専攻ごとに設置していた同一内容の科目統合を行う [4b-2] など、2028 年度学部改組に向け新しい時代に対応した教育内容の検討を進めている。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0404	成績評価、単位認定および学位授与を適切に行っていること。	自己評価	B
評価の視点	(1)成績評価および単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。(2)上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。 (2)成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。 (3)既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。 (4)学位授与における実施手続および体制が明確であるか。 (5)学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。			
現状説明	成績評価および単位認定を客観的かつ適切に実施するために、学生便覧やシラバスに卒業要件と評価基準を明記している [4b-3、4]。また、学位授与における実施手続については学科ごとに手続きや提出書類などを丁寧に示し執筆要項を定めている [4b-5]。卒業研究の内容の多様化に対応するため、毎年学部教務委員会を中心に見直しや検討を行い、分野ごとの要項及び審査基準を明確にしている。さらに、学位審査の客観性確保のために、卒業論文査読者向けの評価基準を評価用紙に明記している。			

評価項目	0405	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価していること。	自己評価	B
------	------	--------------------------------------	------	---

評価の視点	<p>(1)学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p>(2)学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。</p> <p>(3)指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。</p> <p>《学習成果の測定方法例》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト (GPS-Academic) ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 (学びに関する調査 等) ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>※ 具体的な例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。 ・各授業科目の位置づけ (主要授業科目の類別等) と到達目標の明確化。 ・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。 ・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。
現状説明	
<p>毎年5月、6月に指導教授との面談期間を設定し、指導教授が学修ポートフォリオの情報や入学時のプレイスメントテスト結果を参照しながら、個々の学生の学習成果や状況を把握し、必要に応じた支援を行っている。本学部では卒業時に保育士、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校教諭となることを目指す学生が多くいるが、その達成のための学習の順次性および年次進行を「教育課程系統図 [4a-9]」で明示して可視化して、各授業科目の位置づけを学生に理解しやすく示している。</p>	

評価項目	0406 教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	<p>(1)教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。</p> <p>(2)課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。</p> <p>(3)外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。</p> <p>(4)自己点検・評価の結果を活用し、教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。</p>		
現状説明			
<p>毎年、教育課程の見直しや検討、シラバス点検 [4a-11] を実施している。教育課程の見直し、授業科目の精選については、2028年度の学部改組を見据えて長期的な検討を継続していく計画である。また、各教員の実施科目については、大学企画部が実施している授業改善アンケート「魅力ある授業づくりのために」における自己評価及び学生からの評価を参考に授業内容や方法を振り返り、授業改善に取り組んでいる。</p>			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0404	卒業研究の内容の多様化に対応した分野ごとの卒業論文執筆要項及び審査基準の明確化

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0405	客観的な学習成果測定方法の活用
今後の改善・向上方策	
各学生の学習成果をより客観的に把握する方法を教員間で共有し、適切に活用できるよう検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
<p>[0404] 成績評価および単位認定については、学科ごとに卒業研究の評価基準を設けている。卒業要件と評価基準が「卒業論文審査結果記入用紙」[P4b-1]に明記されていることが確認でき、客観的かつ適切に実施されるようになってきているといえる[4b-3、4]。学位授与における実施手続きについては、課題研究及び卒業研究の規程を設け、学科内で厳密な審議・評価がなされていることを確認できた[4b-5]。なお、「卒業論文審査結果記入用紙」については、卒業論文の観点が付されているがルーブリック形式には至っていない。その点についてヒアリング時に確認を行い、卒業研究は（論文・作品・実技）等様々あり、共通したルーブリックを作成することが困難であることが説明された。客観的な評価を目指すためにも卒業研究の形態に分けたルーブリック表を工夫するなどの方法が考えられる。</p> <p>[0405] 指導教授は、担当学生の学修ポートフォリオの情報や入学時のプレースメントテスト結果を参照しながら、毎年面談を実施し、学生個々の授業出席状況や、単位取得状況、成績評価、面談記録などを把握・評価しているといえ、学生の学習成果を適切に把握及び評価していると判断できる。</p> <p>[0406] 毎年、教育課程の見直しや検討されており、改善・向上に取り組んでいる。現在、2028年度学部改組に向けて教育課程の見直しは控えているところではあるが、検討組織としては、文部科学省や厚生労働省の指示事項に沿って内容の見直し変更の必要性が生じた場合、または実施上の教育課程見直しの必要性が生じた場合は、各学科会議において検討を行い、学部教務委員会での検討を経て教授会で審議し決定するという流れである。また、追加資料質問事項の回答から国際理解教育にも取り組んでいることが明らかとなった。シラバス点検[4a-11]の実施、授業評価「魅力ある授業づくりのために」の実施に加え、教育課程の見直しの検討や授業科目の精選も含めた授業改善に取り組んでいると判断できる。</p>	
長所・特色	
<p>0405] 毎年所定の時期に個別面談を実施し、各学生の学修状況や課題を丁寧に把握している点は、学修成果の向上に資する取り組みとして評価される。</p> <p>[0406] 地元のニーズに合わせた外国語教育が特色で、「ポルトガル語入門Ⅰ・Ⅱ」をおき、南米系の子どもたちへの対応力を高めている。そのほか「ニュージーランド・オークランド語学研修+小学校視察プログラム」を実施しており、さらに「英語で数学」では、ネイティブの非常勤講師のもとオールイングリッシュで授業を実施し、多文化共生、国際理解教育を目的とした科目を設置するなどしている。</p>	
留意点	*各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
P4b-1	卒業論文審査結果記入用紙	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 現代教育学部

基準 5 学生の受け入れ

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0502	入学者受け入れ方針（AP）と入試形態・選抜方法との整合性について改善すべき点があると自己評価しており、具体的な検討を進める必要がある。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
入学者受け入れ方針（AP）については、中部大学現代教育学部広報委員会規程[5-1]の下に、学生募集に関して、大学受験を考える高校生等が大学や学部・学科を選択するために必要な情報を提供している[5-2]。入試形態・選抜方法については、全学的な公正性・公平性を担保するために大学入学センターが主たる担当組織であるが、当学部では、学部入学者選抜委員会[5-3]を毎年度4回開催[5-4]し、個別の入試案件について部分的に関与している。また、学生受け入れ方針に沿った多様な選抜をポートフォリオ入試[5-5]、夢探求入試[5-6]などで、受け入れ方針と選抜方法の整合性を図ってきた。	

<input checked="" type="checkbox"/> 2023 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	現代教育学部広報誌「EDUCATUS」紙面のさらなる向上
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
現代教育学部広報誌「EDUCATUS」[5-15]の発行により、受験生に限らず、同窓会、幸友会を含む広い層に、学部の魅力を発信した。さらに、入学志願者層に学科の魅力を伝えるために、幼児教育学科では、学科ポスター原案を学生から公募[5-16]したり、学生自身にチラシを作成[5-17]させたりして、オープンキャンパスや高校訪問で配布した。	

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0503	学生募集力の向上
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
幼児教育学科、現代教育学部、それぞれ独自の入学生募集用パンフレット[5-8][5-9]を、作成した。志願者に近い在学生目線と教員の感覚の双方から、学科の特長が伝わるようなデザインや構成とした。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0501	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程）に設定しているか。 (2)学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。 (5)すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。			
現状説明				
学生受け入れ方針と選抜方法の整合性を図るよう、学部で一部を担う夢探求入試[5-6]などで、志願者に理解しやすく、また、学科における取得資格と志願者の資質・能力にできるだけずれが生じないよう、調整している。				

評価項目	0502	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。	自己評価	B
評価の視点	学士課程全体および各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度入学者数は、現代教育学科116名（定員80名）、幼児教育学科66名（定員80名）となった。学部全体の定員の充足はできたが、両学科のバランスをとれるような、2025年度の学生募集に務めたい。 ・在籍学生数は、適正に維持、管理がなされている[5-7]。 				

評価項目	0503	学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> ・学生受け入れ方針に沿った志願者の選抜を、教員、保育者として求められる資質や能力と照らし合わせて、受験者層の変化に伴って、夢探求入試[5-6]の方法を変化させている。 ・2023年度に続き、オープンキャンパスの学部への来場者について、入試広報課と共有し、高校訪問に反映させる等、受験生増加に結び付くような積極的な取り組みを、学科単位で組織的に行った[5-10]。 ・2023年度に続き、現代教育学科では、教員採用試験合格者の出身高校訪問を行った[5-11][5-12][5-13]。 ・学科広報サポーターズ（幼児教育学科）やピアサポーター（現代教育学科）の感覚を大事にして、学科広報（特にOCストーリーズ、Instagramの発信）を行った[5-14]。 				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0503	学科独自パンフレットに、学科、ボランティア活動における学生の生き生きした写真や動画が見えるよう、InstagramのQRコード貼付
項目 No. 0503	秋のオープンキャンパスのための現代教育学科独自チラシ作成
項目 No. 0503	学科広報（OCストーリーズ、Instagramの発信）に、学生目線を取り入れること

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0503	学生募集のための組織的な取り組み
今後の改善・向上方策	
組織的な取り組みには、学内における学部と入試広報課と学園広報部の連携と、在学生を中心にしたそれぞれの地域に在住する卒業生、その就職先である幼保の現場、小学校、中学校、高校から中部大学の円環構造の両方を組織する必要がある。その方法として、後者では、小・中学校の家庭科授業への本学教員の出張講義、海の日など祝日授業の公開（人数制限あり）が考えられる。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
<p>海外から移住してきたご家族のお子さんたちや特に合理的配慮が必要な子供達への対応ニーズが、少子化のスピード以上に高まっている。「教員が不足し、教員養成のニーズはとて高い」実状のなか、教育者を目指す高校生がとて少なくなってしまうという、国を挙げた政策等によって早急に解決しなければならない日本社会の根本問題が存在する。そういった中、現代教育学部は大変な努力により各評価項目に掲げた課題に取り組んでいることが分かった。</p> <p>[0501]「中部大学現代教育学部広報委員会規程」を策定し、受験生増加に結び付くよう積極的な取り組みを非常によく実施している[5-1][5-10][5-11][5-12][5-13]。</p> <p>[0502] ふたつの学科間で定員充足率に差があるものの、学部全体として充足する努力がなされている。2028年に向けて募集定員の見直しも検討しているようであるが、同時に留学生を増やすことで社会のニーズに応えられるよう、国際交流センターと連携しながら準備を早急に進めていただきたい[5-7]。</p> <p>[0503]現代教育学部広報雑誌「EDUCATUS」[5-15]の発行により、受験生に限らず、同窓会、幸友会を含む広い層に、学部の魅力を発信している。学科ポスター原案を学生から公募したり、学生自身にチラシを作成させたりして、オープンキャンパスや高校訪問で配布をおこない、改善向上に努めている。</p>	
長所・特色	
<p>[0503]学生募集にとてご尽力されている。学科独自パンフレットに、学科、ボランティア活動における学生の生き生きした写真や動画が見えるよう、InstagramのQRコード貼りつけなどの広報を進めている。オープンキャンパスの来場者情報を高校訪問に反映させている。教員採用試験合格者の出身高校訪問を行っている。</p>	
留意点 *各項目に留意点レベルを記入 【A】緊急の改善を要する事項 【B】検討を要する事項	
<p>[0503]日本人学生が減り国際人材ニーズがますます高まっていることを受け、(1)正規留学生の受け入れ増加、(2)海外研修等の更なる充実、(3)国際人材の就職先確保、を早急に着手していただきたい【A】</p>	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022~2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織	現代教育学部
--------	--------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項 <input checked="" type="checkbox"/> 2022 年度ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0602	専任教員数が法定定員には達するが、明らかに不足し、教育理念・目的を実現するための教員組織は一定範囲内でしか編成できていないというのであれば、具体的な改善のための行動を検討する必要がある。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
『現代教育学部運営組織』表 [6-1]を作成する際、学科主任等が中心となり、現代教育学部の教育理念や目的を実現するための組織化を、限られた人員により可能な範囲で行えるように配慮している。	

<input checked="" type="checkbox"/> 2022 年度課題事項 <input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0602	教員集団の年齢に偏りがあり、学部教育の継続性等の観点から 40 代を増員
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
新規に教員を採用する際には、年齢に関する条件にも配慮した採用を実施し、類似する研究・実務業績等がある場合には、より若年の教員を採用した。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0601	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。 ※具体的な例 ・教員が担う責任の明確性。 ・法令で必要とされる数の充足。 ・科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成。 ・各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理。 ・複数学部等の基幹教員を兼ねる者について、業務状況や教育効果の面での適切性。 (2)クロスアポイントメントなどによって、他大学または企業等の人材を教員として任用する場合			

	<p>は、教員の業務範囲を明確に定め、また、業務状況を適切に把握しているか。</p> <p>(3)教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながらかつ協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。</p> <p>(4)授業において指導補助者に補助または授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。</p>
--	---

現状説明	
<p>学部所属の全教員を対象にした「現代教育学部運営組織」表を作成し、学部・学科の専任教員が担う業務の責任等を明確化している[6-1]。「現代教育学部運営組織」表に関しては、現代教育学科主任・幼児教育学科主任を中心に、毎年度末に見直しを学部人事WGで行った後、次年度の「現代教育学部運営組織(案)」表を学部人事WGで作成し、主任会での審議[6-2]、教授会の承認[6-3]を経て役割分担が確定する。</p> <p>クロスアポイントメントなどで学外の業務に携わった学部所属教員はいない。なお、学外業務に携わりたいことを希望する教員がいる場合には、当該教員の教育活動を中心とした学部内の業務量等を学部人事WGで確認した後、学外活動に携わることが可能なエフォート等の情報を当該教員と共有した上、学外業務の範囲やエフォート等の明確化を図る。</p> <p>教育系職員と事務系職員との役割分担に関しては、学部の主要な決定機関である主任会や、学部の業務担当を決める学部人事WGに、学部事務系職員も参加することにより組織的・効果的な業務分担を行っている[6-4]。</p> <p>シラバス作成時に授業の主担当者をシラバス作成者や成績報告者に位置づけ、授業の運営や成績に関する責任を明確化している。なお、大学院生等による指導補助者を活用した授業は行っていない。</p>	

評価項目	0602	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準および手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。</p> <p>(2)年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。</p>			
現状説明				
<p>学部の採用・昇格基準に従って、採用・昇格のプロモートを行っている。学部長・副学部長・学部長補佐・学科主任を構成員とした学部人事WGを学部内に設置し、年間計画にもとづいた人事を行っている[6-5]。具体的には、該当教員の昇格等を行う前年度末の学部人事WGで、昇格等予定者を学科ごとに挙げ、学部全体のバランスを図るなど公正性に配慮した上で、プロモートを担当する教員を決めて昇格等に関するプロセスを開始する[6-6]。</p> <p>教員の新規採用が厳しい状況にあるために、年齢に配慮した人事を行うことには限界があるが、複数の採用予定者について、類似する研究・実務業績等がある場合には、より若年の教員を採用する方針で採用人事を行っている。また、韓国・中国出身の教員を採用するなど、教員の多様性にも配慮した人事を行っている[6-7]。</p>				

評価項目	0603	教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発および改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。</p> <p>(2)教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。</p> <p>(4)教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。</p>			
現状説明				
<p>教員の教育能力の向上、および、教育課程や授業方法の開発および改善を目的にFD&SD委員会が中心となって企画した講演会等の諸活動を、学部所属の教職員の希望などを参考にして年間計画に基づいて実施している。</p> <p>教員の研究活動の活性化に関しては、学部紀要に加えて学部教員を基本的な構成員とした教育学研究所の紀要を作成し、研究成果の公表の機会を広く設けるなどして研究活動の活性化を図っている。社会貢献活動に関しては、学部内に社会貢献関連企画を推進する委員会を設け[6-1]、年間計画の立案[6-8]、各種社会貢献活動の実施状況および評価、課題の洗い出し等を行っている[6-9]。</p>				

評価項目	0604	教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
教員組織による学部内のすべての活動は、「現代教育学部運営組織」表に基づいて行われている。この表に関しては、学部人事WG・主任会・教授会で毎年度末に見直しを行うだけでなく、組織に位置付けられたすべての委員会の活動についても、年度末に報告会を行い[6-10]、各委員会の活動の効果を確認したり、課題への対処法を考えたりすることを継続的に実施している[6-11]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0601	「現代教育学部運営組織」表
項目 No. 0603	FD&SD 委員会が中心となって企画した講演会等の FD&SD 活動

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0602	多様な専門性を有する教員の昇格等に関する基準の整備
今後の改善・向上方策	
教育系学部である現代教育学部には多様な専門性を有する教員が在籍している。たとえば、芸術系に専門性を有する教員の場合、論文数等で研究業績を評価することが難しい。そのため、教員の多様な専門性に対応し、かつ、公平な昇格等の基準の整備・改善する必要があるこうした整備等を進めている。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するか評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 現代教育学部

基準 7 学生支援

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 2022 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	公務員採用試験、教員採用試験の合格者数の増加
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
合格者数を増加させるため現代教育学部は教員採用試験対策講座、幼児教育学部は幼保対策就職講座、公務員対策就職講座、公務員 2 次 3 次人物試験対策講座、論作文対策講座を継続的に実施している[7-1][7-2][7-3][7-4]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 2024 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	合理的配慮が必要な学生へのさらなる対応
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
合理的配慮が必要な学生については、その申請の有無に関係なく、指導教員が適宜面談を実施し、学科会議にて情報共有しながらきめ細やかに対応している。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0701	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	(4) [修学支援 (学習面)] 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか (補習教育、補充教育、学習に関わる相談等) (5) [修学支援 (学習面)] 障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。 (6) [修学支援 (学習面)] 学習の継続に困難を抱える学生 (留年者、退学希望者等) に対し、その実態に応じて対応しているか。 (8) [修学支援 (学習面)] ICT を利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応 (授業動画の再視聴機会の確保等) を必要に応じて行っているか。 (10) [生活支援] 学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。			

	<p>(11) [生活支援] 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）を必要に応じて行っているか。とりわけICTを利用した遠隔授業を行う場合において配慮しているか。</p> <p>(12) [進路支援] 各学位課程（学士課程、修士課程や博士課程など）や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。</p> <p>(13) [その他支援] ボランティア活動・部活動等の正課外における学生の活動への支援など、必要に応じた支援を行っているか。</p> <p>(14) [学生の基本的人権の保障] ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応など、学生の基本的人権の保障を図る取り組みを行っているか。</p>
--	--

現状説明	
<p>学生支援委員会が中心となって支援体制を作り、「中部大学現代教育学部学生支援委員会規程」（平成 30 年 4 月 1 日施行）に従って、規程第 2 条に示した「(1) 資格関連領域以外の就職支援に関する企画・推進 (2) 初年次教育に関する企画・推進 (3) 退学・留年対策を含む全般的適応支援・指導に関する企画・推進 (4) 卒業生の組織化に関する企画・推進」を重点的に行なっている [7-5]。学生支援委員会の活動については、年度始めに活動計画を、年度末に活動報告を教授会へ提出し、点検・評価を受ける [7-6][7-7]。また、合理的配慮が必要な学生、成績不振学生、留年する可能性のある学生、休学希望学生、退学希望学生等については、指導教員や、必要に応じて学部内に在籍する臨床心理士等の専門資格を持つ教員が、個別にカウンセリング等を行い、支援を実施している。キャリア支援に関しては、キャリア支援課が大学全体の学生を対象に実施する支援と合わせて、本学部の専門性に特化した就職支援を「中部大学現代教育学部資格関連就職支援委員会規程」（平成 30 年 4 月 1 日施行）にもとづいて実施している [7-8]。就職支援委員会の活動については、教授会で活動計画・活動報告を点検・評価を行うとともに、学科会議でも個別学生への指導についての点検・評価を行っている [7-6] [7-7][7-9][7-10]。インターンシップ活動に関しては、全学で実施するインターンシップ活動に加えて、保育所でのインターンシップや小学校観察実習、特別支援学校インターンシップを行う科目を設置し [7-11]、学部の特性に応じた就職先に対応する活動を積極的に展開している。</p>	

評価項目	0702	学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1) 学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。</p> <p>(2) 点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。</p>			
現状説明				
<p>毎月 1 回開催される現代教育学部会議・幼児教育学部会議では、各指導担当教員や授業担当教員から合理的配慮が必要な学生、成績不振学生、留年する可能性のある学生、休学希望学生、退学希望学生等について情報共有が行われ、その具体的な指導方針について検討し、点検・評価を行っている。 [7-9][7-10]</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0701	現代教育学部学生支援委員会の活動
項目 No. 0701	現代教育学部資格関連就職支援委員会の活動

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	公務員採用試験、教員採用試験の合格者数の安定的な確保
今後の改善・向上方策	
公務員採用試験、教員採用試験の合格者を増やすために、これまでにインターンシップを行う科目を設置するなど授業内容の改善に取り組み、採用試験対策講座や教育実習センターと連携しての面接指導などの仕組みを構築してきた。その結果、幼児教育学科では2024年度に48名、現代教育学科では27名の学生が採用試験に合格した。幼児教育学科はこの合格者数を安定させることを、現代教育学科はさらに合格者数を増加させるために、指導の強化を図っていく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	合理的配慮が必要な学生の教育・保育実習に対するサポート
今後の改善・向上方策	
合理的配慮が必要な学生について実習先の確保が難しいケースが見られる。今後実習先との関係を更に強化し、合理的配慮が必要な学生の実習の受け入れ先を確保していかなければならない。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
<p>【課題事項対応】0702 公務員採用試験、教員採用試験のための対策講座を継続して実施していて、積極的に参加する学生も多く、効果的な取り組みである。合理的配慮が必要な学生に対して、指導教員が適宜面談を実施し、学科会議で情報共有するなどきめ細かい対応が行われている。</p> <p>0701 学部において「中部大学現代教育学部学生支援委員会規程」「中部大学現代教育学部資格関連就職支援委員会規程」を作成して、学部独自の学生支援体制が確立されており、情報共有および積極的な活動がされており、高く評価できる。保育所、特別支援学校でのインターンシップを行う科目を設置するなど学部の特性に応じた活動を積極的に展開している。</p> <p>0702 合理的配慮が必要な学生、成績不振学生、留年する可能性のある学生、休学希望学生、退学希望学生等について、毎月開催される両学科会議において情報共有がされており、指導方針などが検討されている。</p>	
長所・特色	
0701 「中部大学現代教育学部学生支援委員会規程」「中部大学現代教育学部資格関連就職支援委員会規程」を作成して、学生支援体制が確立され、積極的に活動が展開されている。など、学部独自の支援体制を整備している。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項	
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
P7-1	教員採用試験合格者の練習参加状況について	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 現代教育学部

基準 8 教育研究等環境

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 2022 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	学部開設から 15 年ほど経過し、施設・設備の老朽化が進行していることへの対応
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
自己点検・評価等の結果を受け、2022 から 2024 年度に、事業計画や学部長裁量経費、学科費にて実施した教育研究等環境整備を次のとおり進めてきた [8-1] [8-2] [8-3]。 ○2022 年度：椅子キャスター交換（704 会議室） ○2023 年度：椅子キャスター交換（小会議室、研究所長室、ファカルティルーム）、机・椅子キャスター交換（705A ゼミ室、705B ゼミ室、706A ゼミ室、706B ゼミ室、706C ゼミ室、706D ゼミ室、706E ゼミ室、706F ゼミ室） ○2024 年度：印刷機購入、7133 多目的室のプロジェクター更新、机・椅子キャスター交換（7119 多目的実習室、703A 演習室～703D 演習室）	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0803	研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。 また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っているか。			
現状説明				
(1) 研究活動促進のために、研究発表の場としての「現代教育学部紀要」を年 1 回発行しているが、研究倫理や研究活動の不正防止のために、学部 FD&SD 委員会が点検を行っている[8-4] [8-5] [8-6] [8-7]。 (2)学部卒業研究では外部調査を実施する学生には「課題研究・卒業研究 学外調査研究実施届」を提出することを義務づけている [8-8]。				

評価項目	0804	教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)教育研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がって			

	<p>いる取り組みおよび課題を適切に把握しているか。</p> <p>(2)点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に組み、効果的な取り組みへとつなげているか。</p>
現状説明	
<p>(1)教職課程・保育養成課程をもつ本学部では、学生数、教育方法、施設設備の充実について文部科学省・厚生労働省による厳格な外部審査を受けており、審査に適合したことから充実度が担保されている[4a-6、2-1]。</p> <p>(2)教育研究活動に必要な設備等については、普段から学科会議や主任会等の場で情報交換をしており、「学部等重点事業計画」作成時に学科や主任会、教授会で点検、評価ならびに改善について検討を重ね、要望を行っている [8-9] [8-10] [8-11]。</p>	

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0804	卒業研究における「課題研究・卒業研究 学外調査研究実施届」提出の義務化
項目 No. 0803	学部紀要における査読と倫理審査

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0804	施設・設備の老朽化の継続的な対応
<p>2022年から2024年で、印刷機や多目的ホールのプロジェクターの買い替え等を行ってきたが、図工造形室の大型脚立など備品の更新など取り組むべき課題が残っている。今後も老朽化への対応を計画的に行っていく。</p>	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0804	学部改組による学生数増加への対応
今後の改善・向上方策	
<p>学部改組により学生数が増加した場合、教室の確保や実技授業での設備や備品の拡充が必要になってくる。そのような事態に対応するため改善・向上方策を具体化していく。</p>	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色

留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 現代教育学部

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
コロナに関する事項なので再確認不要とする	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	0901	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。	自己評価	B
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。 (2)社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。			
現状説明	<p>(1) 春日井市教育委員会学校教育課と中部大学現代教育学部が実施している地域教育活動連絡協議会を通して、春日井市が実施している土曜チャレンジアップ教室の大半を中部大学現代教育学部教員の指導のもと、現代教育学部現代教育学専攻の学生が担当している。学校週5日制が実施されて以来、春日井市内の小中学校が土曜日の児童の学びの場を提供するというコンセプトのもと、中部大学現代教育学部の教員・学生が企画運営する学習活動を実施している。また、2024年度から春日井市藤山台学校運営協議会からの要請で、藤山台中学校における夏季休業中の学習支援（夏休みの課題の支援）を、現代教育学部教員の指導のもと、中等教育国語数学専攻の学生が中心となって実施している [9-1]。</p> <p>・こうした連携活動を通して、大学が生み出す知識・技術が地域社会に還元され、春日井市の教育力、児童生徒の学力の向上へ貢献が行われている。加えて、(2) 春日井市教育委員会学校教育課から依頼されている、土曜チャレンジアップ教室では、春日井市の小学生に対して、理科実験を中心とする学習活動を企画運営・指導をしており、地域社会における小学生の「理科離れ」という課題解決に貢献している。</p> <p>また、藤山台中学校学校運営協議会から依頼されている、藤山台中学校夏季休業中学習サポートでは、地域社会における中学生の「学力向上」という課題解決に貢献している[9-1]。</p>			

評価項目	0902	社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
(1)春日井市教育委員会学校教育課の学校教育課長、指導主事、学事担当主任と現代教育学部の現代教育学部長、現代教育学科主任、担当者、現代教育学部事務局とで、地域教育活動連絡協議会を毎年2月に実施し、社会連携、社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて、春日井市教育委員会学校教育課と中部大学現代教育学部は次年度の計画に立案をしている[9-1]。 (2)2023年度の取り組みにおいて、小学校高学年児童の土曜チャレンジアップ教室への参加人数が少なかったことで、2024年度から中学年(小学校3年生)児童にも幅広く参加を働きかけた結果、前年度より多数の児童が参加するようになったこと、そして、より多くの学校区の児童が集まりやすいように学校以外の市の施設での実施が可能かを検討するなど、点検・評価の結果を活用して、効果的な取り組みへと繋げている[9-1]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0902	春日井市教育委員会の実施する「土曜チャレンジアップ教室」の大部分を、本学部の社会連携・社会貢献活動が占めていること。
項目 No. 0902	毎年2月に地域教育活動連絡協議会を春日井市教育委員会と現代教育学部が連携して実施し、活動報告や次年度に向けての検討課題について共有し、議論をしていること。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	春日井市教育委員会との連携を更に進め、地域の実態・ニーズに即した社会連携・社会貢献に努めること。
今後の改善・向上方策	
より多くの学校区の児童が集まりやすいように学校以外の市の施設での実施が可能かを検討するなど、春日井市教育委員会との情報交換を密にして、春日井市教育委員会の要望に対応できるように社会連携・社会貢献体制を教員と学生が整えていく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし

長所・特色	
留意点	*各項に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するか評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025 年度 (対象年度 2022～2024 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 現代教育学部

基準 11 大学独自の評価項目 (管理運営)

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果 (留意点) を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 2022 年度課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果 (留意点)
項目 No. 1120	ペーパーレス化に向け会議等における DX 活用。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
会議に必要な書類を厳選するなどして、ペーパーレス化を進めている。会議の DX 活用に関しては、情報漏洩防止等に対応した設備増設など、実現に向けた課題があり、費用対効果を検証するなどしている。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明	学部の管理運営および組織的な学部教育を実現するために、現代教育学部では学部内に委員会組織を設けている。各委員会は年度はじめに年間計画[11-1]を立案し主任者会および教授会での審議を経て、1年間の活動を開始する。年度末には、各委員会を基本単位とした活動報告書[6-11]を作成し、年度末の主任者会および教授会で年間の活動を報告する。年間計画や年度末の報告会に関しては、教授会等の次第[11-2]に位置づけている。			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色	《箇条書き》
項目 No. 1121	現代教育学部 委員会年間活動計画
項目 No. 1121	現代教育学部 委員会活動報告書

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1121	点検・見直しの機会の最適化
今後の改善・向上方策	
現代教育学部では学部内に委員会組織を設け、年度はじめに年間計画を立案し、年度末には各委員会が作成した報告書を基にして報告会を、主任者会および教授会で実施している。しかし、主任会のメンバーが教授会のメンバーに包含されることなどから、主任会での報告を省略するなど、時間効率を高める方法に切り替えたい。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	*各項目に留意点レベルを記入 【A】 緊急の改善を要する事項 【B】 検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2025年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名	現代教育学部
-----	--------

基準 (シートNo.)	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出区分
2. 内部質保証 (NF2)	2-1	東海北陸厚生局 指定保育士養成施設 指導調査記録	○
	2-2	令和5年度分指定保育士養成施設業務報告書	○
4. 教育・学習(4a) (NF4a)	4a-1	2025年度 高大連携科目担当者案 (PY・PJ) pdf.	○
	4a-2	2024年度 入学前教育の在り方検討WGの資料_20240731	●
	4a-3	学科パンフレットデータ (PY・PJ)	○
	4a-4	学部・学科・専攻DP・CP	○
	4a-5	スタートアップセミナーシラバス (PY・PJ)	○
	2-1	東海北陸厚生局 指定保育士養成施設 指導調査記録	○
	2-2	令和5年度分指定保育士養成施設業務報告書	○
	4a-6	実地視察大学等別報告書 (中部大学)	○
	4a-7	東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会 報告	○
	4a-8	現代教育学部幼児教育学科教育課程、現代教育学科現代教育専攻・中等国語数学専攻教育課程	○
	4a-9	幼児教育学科教育課程系統図、現代教育学科現代教育専攻教育課程系統図・現代教育学科中等国語数学専攻教育課程系統図	○
	4a-10	現代教育学科キャリアマップ (2024年度作成)	○
4a-11	シラバス点検用資料 (2024年度第9回教授会資料)	○	
4a-12	履修オリエンテーション各学年開講科目、時間割資料	○	
4. 教育・学習(4b) (NF4b)	4b-1	2024年度 第2回現代教育学部教務委員会議事録	○
	4b-2	2022年度 第3回現代教育学部教務委員会議事録	○
	4b-3	学生便覧2024年度 (各学科・専攻卒業の要件 p 323、336、337)	○
	4b-4	シラバス (例)	○
	4b-5	2024年度課題研究A・Bおよび卒業研究の指導について	○
5. 学生の受け入れ (NF5)	5-1	中部大学現代教育学部広報委員会規程	○
	5-2	大学ホームページ 現代教育学部 3つのポリシー https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/education/	○
	5-3	現代教育学部入学者選抜委員会規程	○
	5-4	2022-2024年度 現代教育学部入学者選抜委員会議事録	△
	5-5	2023-2024年度 ポートフォリオ入試 入学試験要項	○
	5-6	2025年度 夢探究入試 入学試験要項	○
	5-7	2024年度 第12回現代教育学部教授会進級判定資料	△
	5-8	幼児教育学科パンフレット (2025年3月より配布)	○
	5-9	現代教育学科パンフレット (2025年3月より配布)	○
	5-10	2024年度 オープンキャンパス幼児教育学科来訪者リスト	△
	5-11	2024年度現代教育学科 現代教育学科高校訪問用チラシ	○
	5-12	2024年度現代教育学科 教員採用試験合格者による高校訪問_学生一覧	△
	5-13	2024年度現代教育学科 教員採用試験合格者の出身高校訪問時のプロフィールシート	△
	5-14	2024年度 現代教育学部委員会活動報告書 (広報委員会)	○
	5-15	現代教育学部広報紙「EDUCATUS」 https://www.chubu.ac.jp/academics/education/educatus/	○
	5-16	幼児教育学科 学生作成ポスター	○
	5-17	幼児教育学科 学生作成チラシ	○
6. 教員・教員組織 (NF6)	6-1	「現代教育学部運営組織」表	○
	6-2	2024年度 第11回主任会次第	○
	6-3	2024年度 第13回現代教育学部教授会次第	○
	6-4	現代教育学部 主任者会参加者表&学部人事WG参加者表	○
	6-5	2024年度 現代教育学部 人事の申請について	△
	6-6	2024年度 現代教育学部 採用・昇任等計画	△
	6-7	2024年度 現代教育学部所属教員 国籍一覧	○
	6-8	2024年度 委員会活動計画 (社会貢献委員会)	○
	6-9	2024年度 委員会活動報告 (社会貢献委員会)	○
	6-10	2024年度第13回現代教育学部教授会次第	○
	6-11	2024年度 現代教育学部委員会活動報告書	○
	7-1	教員採用試験対策講座 教職教養対策説明資料	○
	7-2	2021年度入学生 幼保就職講座予定表	○

7. 学生支援 (NF7)	7-3	公務員対策就職講座説明資料	○
	7-4	公務員二次・三次人物試験対策講座 予定表	○
	7-5	中部大学現代教育学部学生支援委員会規程	○
	7-6	2024年度 第2回教育学部教授会議事録	○
	7-7	2024年度 第13回現代教育学部教授会議事録	○
	7-8	中部大学現代教育学部資格関連就職支援委員会規程	○
	7-9	2023年度 幼児教育学科第6回学科会議事録	○
	7-10	2024年度 現代教育学科第8回、第9回、第10回学科会議事録	○
	7-11	シラバス（保育・教育インターンシップ、観察実習、特別支援学校教職インターンシップ）	○
	8. 教育研究等環境 (NF8)	8-1	物品調達書（多目的室プロジェクター）
8-2		印刷機購入を証明する書類	○
8-3		椅子のキャスター購入を証明する書類	○
8-4		中部大学現代教育学部FD&SD委員会規程	○
8-5		2024年度 FD&SD委員会活動報告	○
8-6		2024年度 第6回現代教育学部FD&SD委員会議事録	○
8-7		「現代教育学部紀要」投稿規程	○
8-8		課題研究・卒業研究 学外調査研究実施届	○
2-1		東海北陸厚生局 指定保育士養成施設 指導調査記録	○
4a-6		実施視察大学等別報告書（中部大学）	○
8-9		教育研究に係る学部等重点事業計画案について	○
8-10		中期予算計画調査票（回答）	○
8-11	中期予算計画調査票	○	
9. 社会連携・社会貢献 (NF9)	9-1	令和6（2024）年度地域教育活動連絡協議会議事録	○
11. 大学独自の評価項目 (NF11)	11-1	2024年度 現代教育学部委員会活動計画	○
	6-11	2024年度 現代教育学部委員会活動報告書	○
	11-2	2024年度 第2回現代教育学部教授会次第、2024年度 第13回現代教育学部教授会次第	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管